

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

本学は、開学以来、「教育と学術の研究を通じ、広く一般社会に貢献し、且つ人類の福祉と平和に寄与する視野の広い実践的な人材の育成を目的とする。」ことを『建学の精神』として、特に次の3項目に重点をおいて教育を行っている。

世界的な視野と実践力を備えた国際的教養人の育成。

産業社会に貢献し得る学識と識見を備えた穏健明朗な人材の育成。

学産協同の理念の徹底。

さらに、これらの教育理念を実現させるため、

高度な専門的学理と実用的能力の修得に、学界の権威ある教授陣による充実したカリキュラムの編成。

人類社会への奉仕、人間的ふれあいを重視した少人数ゼミナールの徹底。

国際社会に適応できる知識の修得と実践力に富む語学教育を目的とした海外セミナーの実施。に配慮し、独創的で穏健明朗な実践力に富む近代的人材を育成し、現代社会の要請に応えようとしている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

（コンピュータサイエンス研究科）

情報化社会を支えるコンピュータ技術の発展を担う有能な人材を養成することを目指して、専門性を重視した実践的な指導を通じ、絶え間なく進む技術革新に対応できる知的体力を保つ教育を行う。

具体的には、産業界で活躍ができる技術者を次のとおり養成すると共に、教育・指導を通じて、豊かな人間性を備えた人材を養成する。

- ・新しい発想でのコンピュータシステム、インテリジェントシステムの開発能力を備えた技術者
- ・利用者の視点に立ったシステムの構築能力を備えた技術者
- ・総合的能力を有するシステムエンジニア

（２）教員養成の目標・計画

①大学

大阪学院大学は、「本学は、教育と学術の研究を通じ、広く一般社会に貢献し、且つ人類の福祉と平和に寄与する視野の広い実践的な人材の育成を目的とする。」を建学の精神として掲げ、研究・教育の実践に邁進してきた。

教員養成も建学の精神と軌を一にしている。すなわち「社会に貢献し、人類の福祉と平和に寄与する視野の広い実践的な」教員を養成することをめざしている。

教育現場では、特に「実践的な」人材が求められており、身近な問題に意欲的に取り組むことにより、社会貢献がなされるよう、以下の目的に重点を置いて教員を養成する。

- ・「教育は人なり」の言葉通り、教員の人間性により教育の質は変わる。人から真に信頼され、慕われる人間性の育成を教員養成の基礎に置く。
- ・教員は教える、育てることの専門家である。難しいことをやさしく教えることができる素養と、深層を語ることができる教養を身につけ、そこから自己の興味を発見する生徒を育成すること

ができる教員を養成する。

- ・教える人はまた学ぶことの専門家である。常に好奇心をもち、学ぶことを楽しみ、真理を発見する研究的な態度をもつ教員を養成する。
- ・その場でできることを考え、実践することができる力をもち、惜しむことなく生徒の成長に資するものを与えることができる教員を養成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

（コンピュータサイエンス研究科）

コンピュータサイエンス研究科では、「大阪学院大学における教員養成の理念と目的」に基づき、研究科独自の人材の養成、教育研究上の目的および学位授与の方針のもと、次のような教員を養成することを目指す。

- ・専門的技術者に必要な論理的思考能力を有し、研究に取り組む姿勢が主体的で、専門的な実践能力および豊かな人間性を兼ね備えた教員。

（３）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

（コンピュータサイエンス研究科）

（コンピュータサイエンス研究科）

令和４年度より、新しい高等学校学習指導要領に基づき、高等学校情報科においては、共通必修科目「情報Ⅰ」が新設され、すべての生徒がプログラミングやネットワーク、データベースの基礎等について学習することになり、選択科目「情報Ⅱ」では、プログラミング等についてさらに発展的に学習することになった。

さらに、大学入学共通テストの科目として「情報」が採用されることになったが、高等学校現場では「情報」を教えることのできる教員が不足していることが問題となっている。

コンピュータサイエンス研究科としては、時代の要請に応え、情報の高度な知識・技術を持った教員の養成は急務であり、内部進学者はもとより、外部の情報系学部の卒業者に対しても、専修免許の取得は大きなメリットであると考えられる。

特に、これまで、本研究科では学部卒業者に対して、進学と就職との差別化が出来ず、大学院へ進学することのメリットが乏しく、ガイダンス等でも進学することのインパクトを付与することが出来ずに忸怩たる想いをしてきたという経緯がある。

学部での教員免許取得者に限定されるが、修士課程での履修により「一種普通免許状」を「専修免許状」へアップグレードすることが可能となることは、進学意欲の向上に繋がり、更には学部の段階での教職課程科目の履修者数の増加も期待できる。

大阪学院大学大学院 コンピュータサイエンス研究科は「コンピュータシステムとインテリジェントシステム」の主要２分野から構成されるカリキュラムの中で、実施しています講義と演習を一体化した実践的な専門教育を活かして、高度の情報教育を実践することができる教員の養成を目指します。

また、本研究科の教員養成の意義は、教育現場に高度な情報教育を実践することができる人材を提供することによって、高度の情報通信技術の知識・技術について教育を受けた次世代を担う青少年たちを育成することである。

以上の理由から、現行の教育課程をより充実させ、高等学校の情報専修免許状取得のための教職課程を設置する次第である。

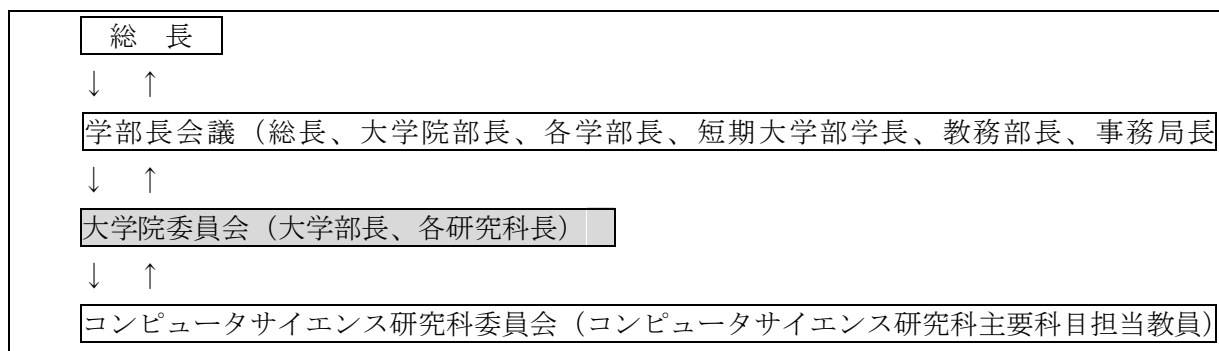
様式第7号イ

Ⅰ. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	大学院委員会
目的：	学長の諮問により、大学院の学則及び規定の改変に関する事項、研究科の増設又は変更に関する事項、その他各研究科共通の教育研究に関する事項について審議することを目的としている。
責任者：	大学院部長
構成員（役職・人数）：	大学院部長、 商学研究科長、経済学研究科長、法学研究科長、国際学研究科長、コンピュータサイエンス研究科長 以上6名
運営方法：	原則として毎月1回開催している。大学院部長と各研究科長が参加し開催する。議題は前述の目的欄に記載の事項を議論する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

特になし

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	特になし
連携先との調整方法：	
具体的な内容：	

Ⅲ. 教職指導の状況

一種免許状を取得していることが前提となるため、入学時に免許状取得の有無を確認し、個別指導を行っている。特に学内進学の場合は、学部担当者と連携し入学後スムーズに研究と免許取得の両立が進められるよう指導を行っている。 また、免許取得方法は、公式HPで広く周知を行っている。 https://www.ogu.ac.jp/graduateschool/pdf/teacher_license.pdf
